



住みやすい町を目指して… 53

「火災ゼロ」の町へ

松田町消防団 団長 やざき よしかず 矢崎 吉一さん(宮前在住)

紹介

松田町消防団は「消防組織法」に基づき昭和30年4月1日に設立され、本団、7個分団、機能別消防団員、計126名（令和5年4月1日現在）で編成されています。

消防団員の活動

消防団員は、常勤消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から直接現場へ駆けつけ、速やかな消火・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員のことです。消防団の活動としては、消火活動、救助活動、水防活動、防火・啓発、広報活動などがあり、年間を通じて消防団員は献身的に活動しています。また、寄地区を管轄する第5分団から第7分団は、山での遭難事故が発生した場合、迅速な捜索活動を実施するため、遭難救助隊を組織します。捜索の要請があった場合は、丹沢山系などを捜索するために、山を熟知している精強な隊員が必要です。

消防団の現状

消防団員のほとんどの者が「サラリーマン」です。近年は、会社や事業所などの消防団活動への理解や協力を得ることが難しく新規団員の募集が難しくなるとともに、団員の高齢化による退職もあり、充足率は毎年低下しています。その中で町では令和元年に機能別消防団員制度の導入、令和



令和4年度町年末火災特別警戒激励

4年度に消防団員の出動手当を日当から時間給へ変更するなど、団員の確保や組織の魅力化を図り、消防力の維持強化を図っています。

新時代に即した消防団へ

「災害は忘れた頃にやってくる」といいますが、近年の災害はいつ来てもおかしくない状況であり、大規模地震、大型台風、長期前線停滞、富士山噴火などの大規模災害の可能性が高まっていると言われていいます。消防団員は、火事や災害対応のため、消防団を中核とした地域の防災力の向上が求められ、果たす役割はますます大きくなってい

ます。反面、年々消防団の人員は不足しています。

こうした状況の中、巨大化する近未来の災害に備え、新しい時代の消防団が必要です。昨年は、第6分団の詰所の改修工事や新型消防車両の導入、本年度は消防団管理アプリ導入によるデジタル化など、消防環境の強化を図っています。また、消防団の将来を見据えた改革を検討し「少数精鋭、装備の近代化、運営に透明性のある真に機能する消防団」を目指して各種改革を実行していきます。

最後に「火災ゼロ」を目標とし、訓練により団員の練度を向上させ、消防団として一致団結、町民の安全安心のために精進してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

町議会広報広聴常任委員会では、
「住みやすい町を目指して」
活動されている方や団体で、このコーナーに掲載して下さる方を募集しています。
希望される方は下記までご連絡ください。

第2回定例会は6月6日(火)開会

発熱等症状がおありの方は、ご遠慮ください。

議会広報広聴常任委員会
委員長 寺嶋 正
副委員長 内田 晃
委員 田代 実
委員 中野 博
委員 飯田 一
委員 齋藤 永

これからも町民のくらしを守るために、町政運営をしっかりとチェックしてまいります。(寺嶋)

令和5年度の予算は、6人で構成する一般会計予算審査特別委員会でも慎重に審査されました。特に、町税が減少傾向にあるため、財源の確保に努めること。Aオンデマンドバス交通の導入に向けた実証実験は、公共交通事業者との調整を図ること。「あしがらジビエ工房」の管理運営を軌道に乗せ、ジビエの精肉販売事業を展開することなど審議されました。予算執行における質疑内容を載せましたのでご覧ください。

編集
あとがき

